Super Science High school 特設課外授業受け入れ報告

技術室（上宝観測所）　和田博夫

平成 19 年度、地震予知研究センター上宝観測所では、ＳＳＨ(Super Science High school)特設課外授業で、滋賀県立膳所高校、和歌山県立海南高校の２校を受け入れたので報告致します。

飛騨地区には、東京大学のスーパーカミオカンデ、東北大学のカムランド、京都大学の飛騨天文台、穂高砂防観測所そして上宝観測所と多くの研究施設があり、この事業の窓口である飛騨市役所が一回２，３ヶ所の施設を見学する企画を立て、全国のＳＳＨ指定校に呼びかけたものである。見学の都度市担当者２，３名が同行されて色々とお世話をしてみえた。

海南高 第 492 号
平成 19 年 11 月 7 日

京都大学防災研究所
地震予知研究センター
センター長　川崎一朗　様

和歌山県立海南高等学校
校長　上 田 公 一

地震予知研究センター　見学研修のお願いについて（依頼）

秋冷の候、貴機構の皆様におかれましては益々ご清勝のこととお喜び申し上げます。また、平素は本校教育にご理解とご協力を賜り誠に有り難うございます。

さて、本校の SSH 特設課外授業としまして、下記の通り貴機構での体験的な学習活動や施設見学を計画しております。

つきましては、本校 SSH 特設課外授業におけるご指導のご協力と、あわせて施設利用の許可をいただけますようお願い申し上げます。

記

1　日時および場所　平成 19 年 11 月 15 日（木）　9:00-12:00
　　地震予知研究センター

2　人数　本校１年生　男子２７名、女子１３名
　　引率教諭　男性　３名　計４３名

3　内容　講義聴講、機構内見学など

和歌山県立海南高等学校
スーパーサイエンスハイスクール事務局
担当　飯島　輝久
Tel:073-482-3363 FAX:073-484-2346
E-mail:iijima@kainan-h.wakayama-c.ed.jp

図１　見学依頼書

７月 25 日（水）滋賀県立膳所高校の総勢 27 名（生徒 23 名、引率４名）が午前来訪された。まず観測坑道を案内した。坑道は大変狭い空間である為、７，８名で一班を編成して全員ヘルメットを着用して入口から 50m付近まで入坑していただいた。坑内温度 11 度と、この時期にしては涼しい気持ちがする状況の中で、地震計，傾斜計、伸縮計等の計測器の原理や観測方法について説明し、観測坑道が出来るまでの経緯についてお話した。頭の上の岩がむき出しになっているのをみて不安を感じたのか、あまり質問も出なかったので、全員見学が済んだ後、観測所へ戻って所内でパワーポイントを使って、地震一般や、観測所の業務、成果等の説明を行った。３，４名の生徒から質問があったが、全体的には低調な雰囲気の中で約３時間の施設見学を終了した。反省として、お話することも必要であるが、地震計等の機器を直接触れてもらう時間を多くとることがより印象に残るのではないかと思う。

写真１　観測坑道入口付近での膳所高校生徒

11 月 15 日（木）には、和歌山県立海南高校の生徒 39 名と引率の先生３名の 42 名の皆さんが訪問された。膳所高校の場合と同様、最初に観測坑道を案内して、其の後、観測所にて地震一般に関する説明を行った。今回の場合、人

数が多かった為に、観測坑道での見学に時間がかかりすぎた為に、観測所での説明に十分時間をとることが出来ず、見学者の皆さんに申し訳なく思っています。

後から飛騨市の担当者と意見を交わす中で、人数は最大 40 人が限度で、それ以上の場合は再考の必要があるとのことで意見の一致を見た。また、夏場は観測坑道を是非見ていただきたいが、積雪期は条件が非常に厳しい為、すべての時間を観測所内での講義に向け、其の中で坑道写真によって坑内を紹介するのが適当ではないかとのことであった。私個人の気持ちとしては観測現場を一目見ていただくのが一番印象に残るのではないか考えていますが、安全性を考えた場合、より確実な方法をとることが必要かもしれない。

今年度、もう一校京都教育大学附属高校が見学希望しているとのことですが、時期が３月とのことですので、観測所での見学しか出来ないと思われます。これまで以上に工夫する必要があると思います。実際に地震計を振らして記録をみてもらうことも考えたいと思っています。

写真２　観測坑道内で説明に聞き入る海南高校生徒

写真３　観測所での説明に耳を傾ける生徒たち